

観天 望気

ポテンシャル秘めた日本漁業

2022年3月、新たな水産基本計画が閣議決定された。

昨今、海洋環境の激変などにより漁獲量が急減し、前浜へ来遊する水産資源を活用する沿岸漁業にとって大きな脅威となっている。私どもは国に対し、この危機を踏まえた将来の沿岸漁業のあり方の明示と政策実現を求めてきた。

その結果、沿岸漁業では、来遊の変化に応じた新たな水産資源の活用や新たな養殖業、生産と消費の場が近いという特長を生かした加工・流通のバリエーションの強化や高付加価値化を図るといった沿岸漁業の方向性が位置付けられた。

ただ、沿岸漁業者や漁協が取り組むべき課題は多い。漁業者の理解と協力の下で新たな資源管理をみずからの課題として実践していくとともに、漁業者の経営安定対策、産地市場の統合による集荷力と価格形成力を持つ体制の構築、それを担う人材育成、藻場・干潟の保全などのCO₂削減対策、海業など沿岸域の利用促進などさまざまな課題がある。

このように、水産業・漁村を取り巻く情勢は楽観できるものではないが、日本の漁業は衰退産業かという点、決してそうではない。むしろ大きなポテンシャルを持っている。

四方を海に囲まれ、世界有数の豊かな海を有する日本では、多種多様な彩りある魚食文化が津々浦々で育まれ、寿司に代表されるように、「和食」は魚を中心として発展した。

世界で認められ、定着したこの魚食・和食文化を、日本の大きな強み、魅力として内外に大いに発信していきたい。ウィズコロナの局面でも、外国人訪日客の方々には、新鮮な魚が水揚げされる地方の浜で、「本物」の日本の魚食・和食に触れていただく。そうすれば、日本人も魚食の素晴らしさに改めて気付く、日本漁業に新たな可能性も生まれるだろう。金融面も含め、このように多面的に取り組んでいくことが、漁業を成長させるうえで重要となる。



坂本 雅信

全国漁業協同組合連合会 代表理事会長

さかもとまさのぶ
1959年生まれ。81年慶應義塾大学卒業。2009年より銚子市漁業協同組合代表理事組合長、12年6月より千葉県漁業協同組合連合会代表理事会長、同年7月より一般社団法人千葉県漁港漁場協会代表理事会長を務める。22年6月より現職。